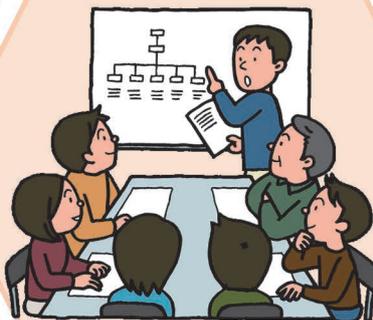
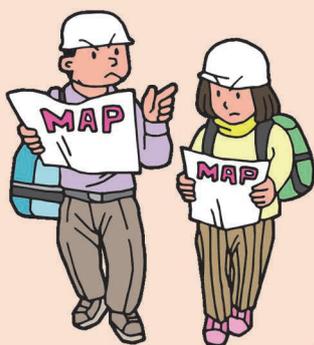


# 自主防災組織の手引き



平成 28 年 3 月

日 高 市



# はじめに

近年、地震や土砂災害等の自然災害により、全国各地に大きな被害が発生しており、その態様も多様化の傾向を示しています。また、首都直下地震の発生が懸念されており、市民の安心・安全に対する関心は高まっています。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、地震に伴う津波や建物倒壊などによって、多数の死者・行方不明者が発生したほか、液状化現象、地盤沈下、家屋被害や電気・水道・ガスなどのライフラインの停止、道路の寸断など、多方面に被害が及びました。

このような大規模災害発生時における過去の教訓を踏まえると、公的機関による対応のみでは被災者の救助や消火活動等に限界があるため、市民自ら自助・共助の活動体制をいかに整えるかが重要になります。

大災害のときに、真っ先に駆けつけて助け合うことができるのは、「向こう三軒両隣」といわれる地域の方々です。東日本大震災や阪神・淡路大震災など、過去の災害時には、住民の安否確認、行方不明者の搜索、避難所の運営及び炊き出しなどが、地域の方々の手によって行われましたが、日頃から住民同士の結びつきが強い地域ほどこうした活動が円滑に行われていたと言われていました。

日高市では、過去の災害における教訓を基に、隣近所や区・自治会などの地域コミュニティがもつ「人と人とのつながり」や「即応性」を重視して、地域の防災力を高めながら災害に備える活動を支援しています。

この手引きでは、市民が参加して地域の自主防災活動に取り組む「自主防災組織」の設立・運営・活動について紹介します。近年は市内では大きな災害は発生していませんが、震災や風水害により市内に大きな被害が発生した場合を想定し、自主防災組織の活動に役立てていただきたいと思います。ひとりでも多くの市民が地域の自主防災活動に参加して、活力ある「自主防災組織」を設立することで、皆さんの手によって、一層、地域の防災力を高める一助にさせていただきますようお願いいたします。

平成28年3月

日高市 危機管理防災課

<b>1. 自主防災組織とは</b> .....	<b>1</b>
(1) 地域の一人ひとりが防災要員 .....	1
<b>2. 自主防災組織の役割</b> .....	<b>2</b>
(1) 災害に備えて役割を分担しましょう .....	2
<b>3. 自主防災組織の整備</b> .....	<b>4</b>
(1) 自主防災組織結成までの手順 .....	4
<b>4. 災害時の活動</b> .....	<b>6</b>
(1) 情報の収集・伝達 .....	8
(2) 避難誘導 .....	8
(3) 安否確認 .....	9
(4) 被害状況の確認・報告 .....	9
(5) 救出・救助・救護活動 .....	10
(6) 応急活動・初期消火活動 .....	10
<b>5. 災害発生後・避難所での活動</b> .....	<b>11</b>
(1) 協働による避難所の開設・運営 .....	11
(2) 情報収集・広報活動 .....	11
(3) 給食給水・生活支援 .....	11
(4) 安全点検・巡回活動 .....	11
(5) 自主防災組織の活動記録 .....	12
<b>6. 平常時の活動</b> .....	<b>13</b>
(1) 活動計画の作成 .....	13
(2) 防災知識の普及・啓発 .....	14
(3) 防災点検・防災マップ（ハザードマップ）づくり .....	14
(4) 防災訓練の実施 .....	16
(5) 情報収集・伝達訓練 .....	17
(6) 初期消火訓練 .....	18
(7) 救出・救助・救護訓練 .....	19
(8) 避難・誘導訓練 .....	19
(9) 給食・給水訓練 .....	20
(10) 地域との連携 .....	20
<b>7. 自主防災組織をもっと活性化させるためのヒント</b> .....	<b>21</b>
(1) 自主防災組織を結成するだけで終わらせないために .....	21
<b>8. 自主防災組織の地域防災力を強化する</b> .....	<b>22</b>

# 1. 自主防災組織とは

## (1) 地域の一人ひとりが防災要員

「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持ち、住民同士が助け合って災害から命、財産、わがまちを守る組織が自主防災組織です。地域コミュニティのつながりの中では、災害に備える地域の一人ひとりが防災要員です。

災害時に落ち着いて行動するためには、日頃からの心構えや備えが欠かせません。そのため、自主防災活動を充実させ、話し合いや創意工夫を重ねながら災害に強いまちづくりに取り組むことが必要です。こうした取組みに参加しておくことは、地域を守る活動に必ず生かされます。

また、高齢者、障害者、乳幼児、妊産婦、傷病者、日本語が不自由な外国人など、災害時には助けを必要とする人々がいます。このような助けを必要とする「要配慮者」を、地域の中でどのように支援するかを考え、実践していくことも自主防災組織の重要な役割です。

自主防災組織を立ち上げて、日頃から地域の安全を点検し、防災に必要な知識や家庭内の対策について、繰り返し呼びかけましょう。

### 消防団と自主防災組織

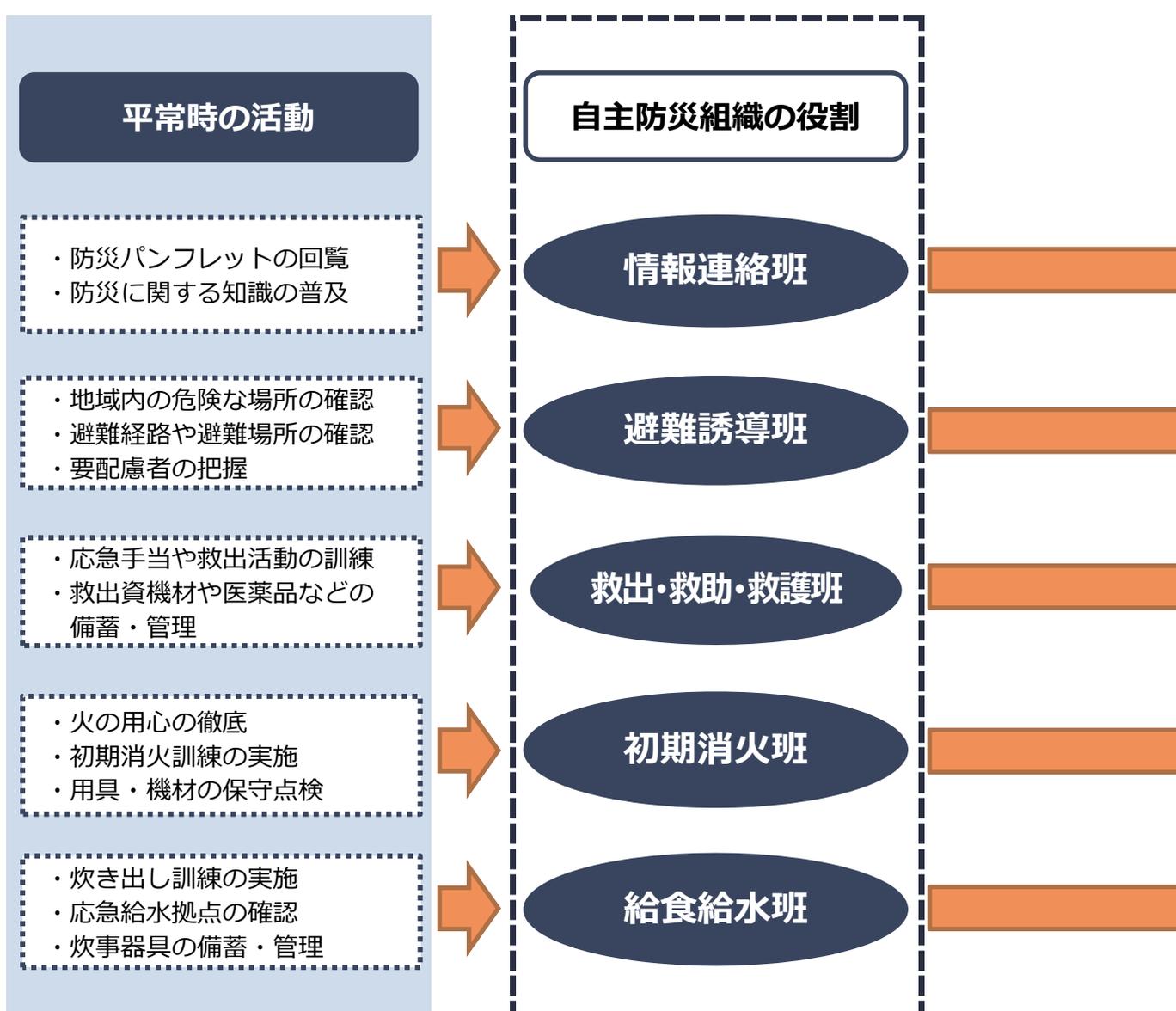
消防団は、災害現場での被害の拡大防止や応急復旧のための直接的な活動が主体となります。一方、自主防災組織は、防災知識の普及、地域の安全点検や訓練を実施するとともに、災害時には情報を収集し、避難を呼びかけ、避難所の運営に参加するなどの活動を行います。両者は災害から地域を守る点においては同じ目標を持っています。災害に強い地域づくりを目指して、日頃から啓発活動や訓練を通じ連携を深めておきましょう。

## 2. 自主防災組織の役割

### (1) 災害に備えて役割を分担しましょう

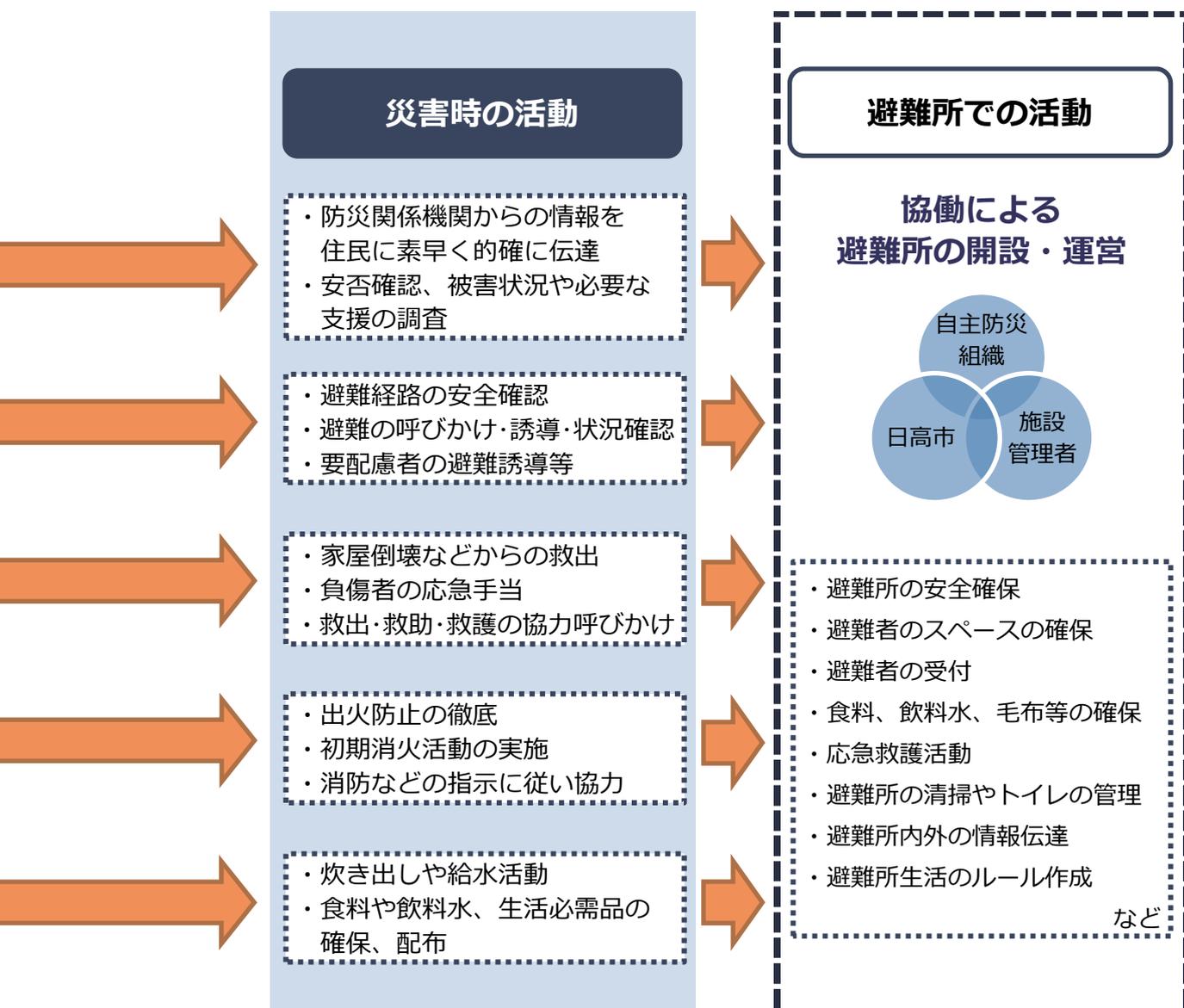
災害時には、隣近所や区・自治会など、地域に密着した住民の集まりの中でお互いに助け合うことが大切です。自主防災組織は、隣近所や班などを取りまとめ、地域住民が一体となって平常時の防災活動や災害時の助け合いに取り組む組織です。区・自治会などの地域コミュニティを母体として自主防災組織を結成しましょう。

日頃からの災害への備えに加え、特に災害発生直後にはさまざまな活動が必要です。自主防災組織には、情報連絡・避難誘導・救出救護・初期消火・給食給水など地域を守るための役割があります。



自主防災組織を結成したら、地域の力を発揮できるように活動内容や役割分担に応じた活動班を編成しましょう。それぞれの活動班には班長をおき、住民同士が役割を分担して、皆さんが積極的に自主防災活動に参加できるような仕組みを話し合しましょう。

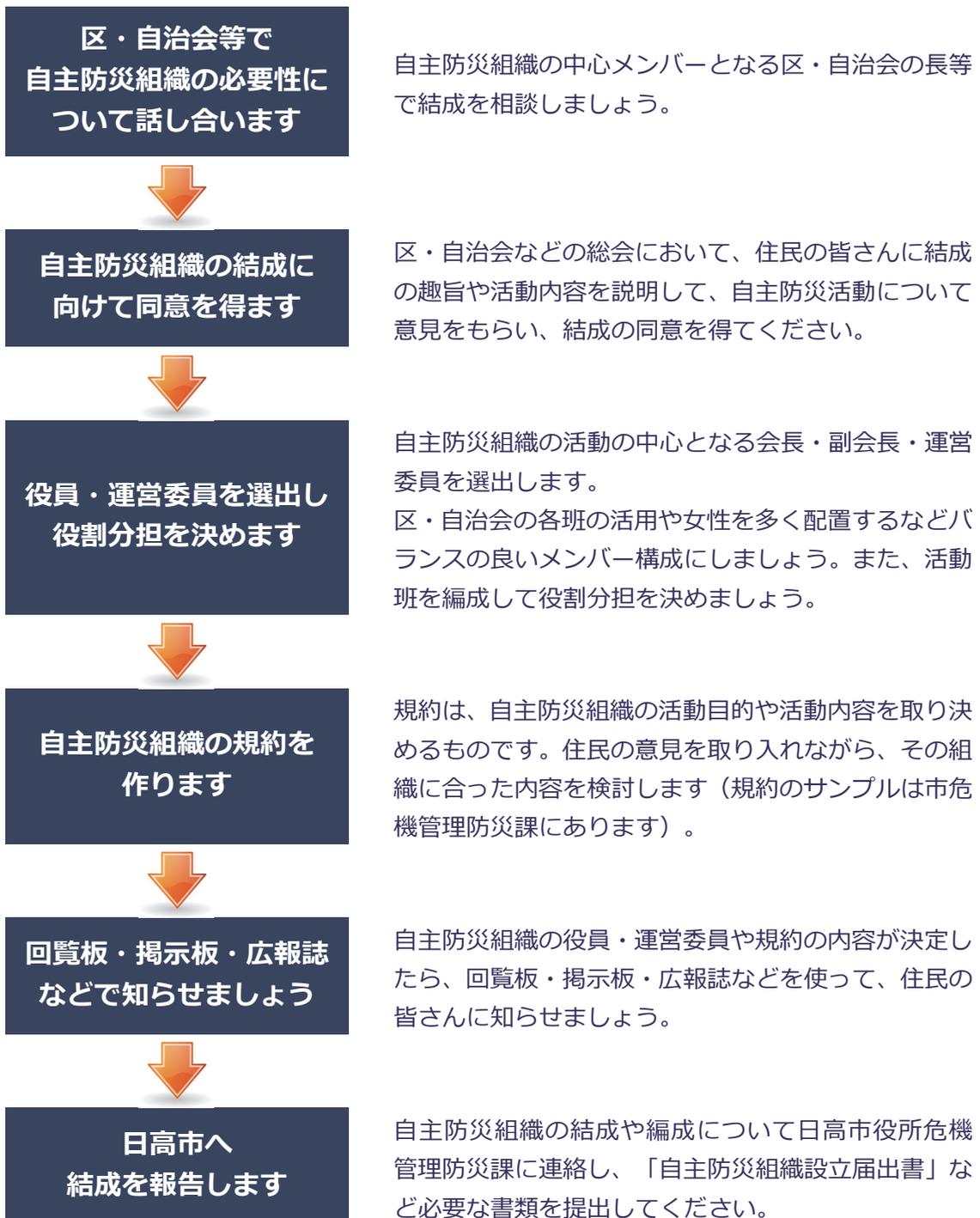
地震や水害のほか、市内には土砂災害などのおそれがある地域もあります。地域の実情に応じた活動内容や役割分担を考えましょう。



### 3. 自主防災組織の整備

#### (1) 自主防災組織結成までの手順

地域の自主防災活動を行う「自主防災組織」の結成には、まず何よりも住民の皆さんの理解と協力が不可欠です。ここでは、自主防災組織を立ち上げるまでの流れを示します。



## 自主防災組織の組織づくりの方法

自主防災組織の組織づくりには、次のような方法などがあります。

「重複型」 区・自治会の役員が自主防災組織の役員を兼務する場合

「下部組織型」 区・自治会の下に独自の役員を持つ自主防災活動部門を作る場合

	重複型	下部組織型	別組織型
タイプ	区・自治会役員が自主防災組織の役員を兼務する。	区・自治会の長（＝自主防災組織の長）の下に独自の役員を持つ自主防災活動部門を作る。	区・自治会とはまったく別個に自主防災組織を作る。
長所	組織づくりが容易。活動が持続しやすい。		役員全員の負担が軽い。
	住民にとって組織の仕組みがわかりやすい。	区・自治会の長以外の役員の負担が軽い。 経験が蓄積され専門性が高まる。 活動の独自性が発揮しやすい。	
短所	区・自治会の役員交代によって活動方針や熱意が変わる。		既存の区・自治会の組織との混乱が起こりやすい。

## 規約の作成

自主防災組織の活動を円滑に行うためには、組織の位置づけや体系、役割分担等を明確にした規約（運営ルール）を作成しておくことが重要である。

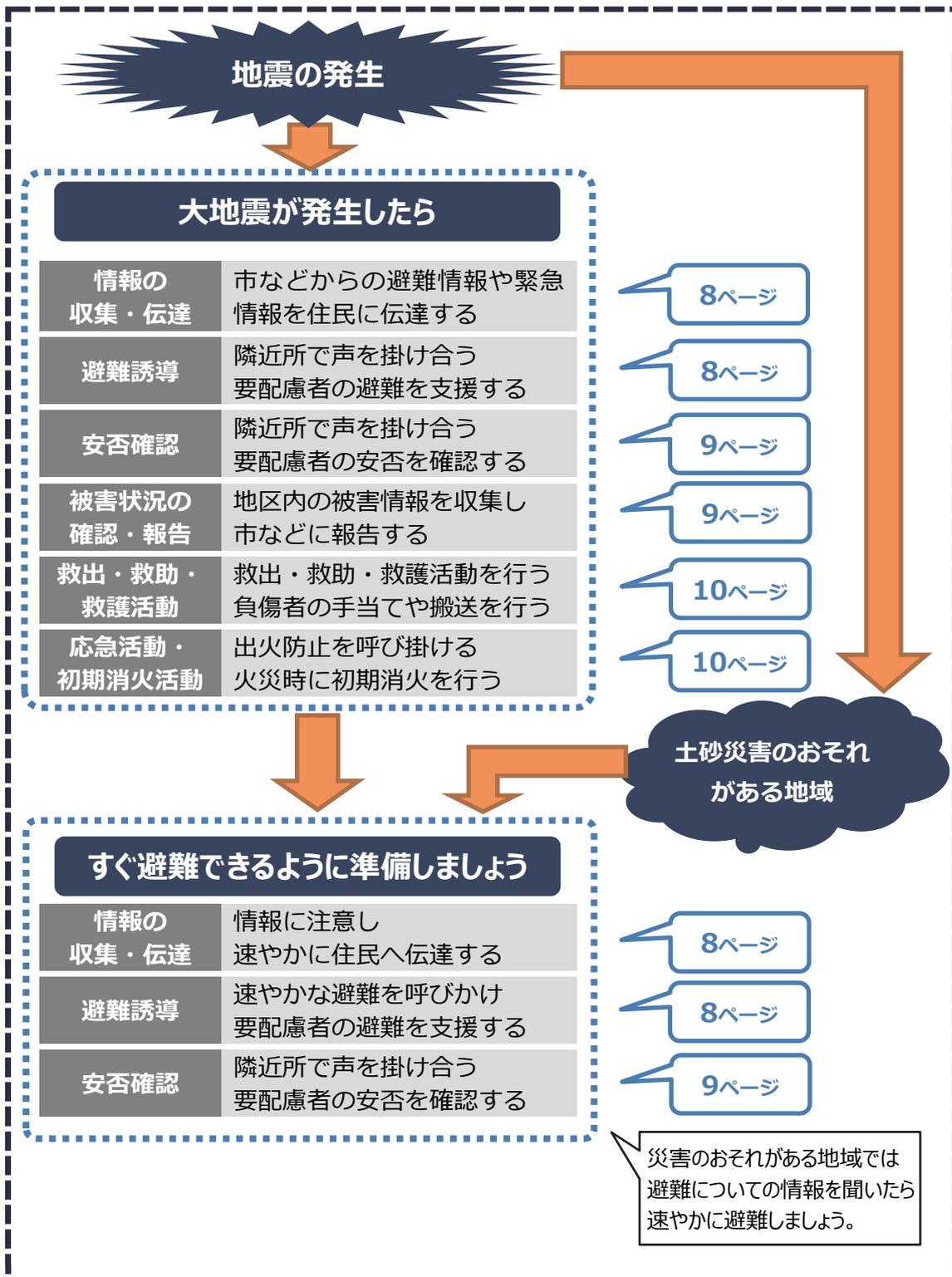
規約は、組織の目的、事業内容等を明らかにするとともに、役員の選任及び任務、会議の開催、防災計画の策定等について定めるものであり、次のような点に留意して作成するとよいでしょう。

- ①自主防災組織を設置する根拠は、組織に参加する住民相互の合意にあり、相互の合意を明確化した規約を定めておく必要がある。
- ②自主防災組織を設けるにあたり、区・自治会の一つの部門として設ける場合は、それらの規約を改正すれば足りるが、新たに自主防災組織を設ける場合は、規約により必要事項を明確にする必要がある。
- ③規約は、組織の目的、事業内容等を明らかにするとともに、役員の選任及び任務、会議の開催、防災計画の策定等について定めるものである。

## 4. 災害時の活動

自主防災組織が取り組む活動は、発生する災害によってその内容やタイミングが異なります。ここでは、災害発生時の活動を紹介します。災害に備えて地域の活動計画を立てておき、万一の場合にも落ち着いて対応しましょう。

### 地震のとき



## 風水害のとき



## (1) 情報の収集・伝達

- 市防災行政無線や広報車、避難場所、公共施設等の掲示板への貼り出し、市ホームページ、エリアメール及びSNSなどから、日高市における災害情報を収集し、住民に伝えます。
- 重要な情報は必ずメモしておきましょう。被害や避難に関するものなど優先順位を考えて、住民に情報を伝達します。確実に情報が伝わるよう、普段から作成している連絡網などを活用し、「人から人へ」伝えましょう。
- 避難時にも情報が入手できるようラジオ、携帯電話などを持ち出しましょう。
- 要配慮者には、事前に連絡体制を確認しておき、迅速に情報を伝達しましょう。

## (2) 避難誘導

- 建物被害等がある場合には、危険な場所を避け、安全な避難経路で避難所や避難場所まで誘導します。
- 避難場所は複数想定しておきましょう。水害・土砂災害発生時は移動避難に危険を伴うことがあります。特に、土砂災害が発生する可能性のある危険箇所の近隣住民については、安全な場所へ早めの避難を検討しましょう。
- 風水害・土砂災害が発生するおそれがあり、市から避難準備情報や避難勧告・指示が発表されたときは住民に避難（避難準備）を呼びかけます。住民の生命に危険が及ぶおそれがあるときは自主防災組織の判断で避難を呼びかけます。
- 呼びかけは避難誘導班だけでなく、隣近所や他の班も協力して行いましょう。
- 避難行動要支援者に対しては、必要に応じて担架や車いす、リヤカーなどを活用して避難を支援しましょう。

### (風水害・土砂災害) 避難準備情報が発表されたら

避難行動要支援者は避難に時間を要することがあります。

避難行動要支援者に連絡を取り、避難支援の準備をしましょう。



### (3) 安否確認

- まず、自身の身の安全を確保します。
- 自身の身の安全を確保した上で、家族・隣近所の身の安全を確認します。
- 出火防止を呼びかけ、火元を確認しましょう。
- 避難行動要支援者には、地域で分担して安否を確認します。
- 救助や避難の手助けが必要な人がいる場合には、協力して助けましょう。
- 避難所や避難場所では、住民の避難状況を確認します。

#### スムーズに安否確認できるルールを話し合い、 定期的に訓練を行いましょう。

区・自治会の班長を中心に、班ごとに地域住民の安否確認を行ったり、避難所での確認用にあらかじめ名簿を用意しておくなどの方法があります。

「わが家は全員避難しました」と一目でわかる札や目印を工夫し、避難するときは玄関前に掲げるようにしている事例もあります。

### (4) 被害状況の確認・報告

- 災害発生後、自主防災組織が活動できる範囲で地区内の被害状況を確認します。次のような項目を確認しましょう。
  - ・ 地区内の人的被害や行方不明者数
  - ・ 建物や道路の損壊状況
  - ・ 通行止めとなっている道路や孤立した地区
  - ・ 火災の発生状況
  - ・ がけ崩れ、地すべり等の土砂災害の発生状況
- 被害状況の確認は、調査区域を分担して担当者を決めて実施します。自主防災組織の長や情報連絡班がとりまとめて、市や消防署など防災関係機関に報告します。
- 必ず複数人で行動し、周囲に注意して無理な行動は避けましょう。

#### 無事情報も確認しましょう

「被害なし」という報告も災害の状況を把握する重要な情報です。忘れずに報告してください。

## (5) 救出・救助・救護活動

- 救助を必要とする人を発見したら、救出に協力できる人を集めます。救助にあたっては、自分と周囲の安全確保を優先にしてください。
- のこぎり、ハンマー、バールなどの救出資器材を活用し、二次災害に十分注意し、がれきなどを取り除きます。
- 大規模な救出作業や二次災害のおそれがあるなど、危険を伴う場合には、無理をせずに消防署や消防団、警察などに出動を要請しましょう。

### 講習を受けて技術を身につけましょう

倒壊した家屋などから被災者を救出するには、専門的な知識や技術、資器材が必要になります。防災訓練のときに、消防署等から適切かつ対応可能な救出方法について指導を受けましょう。

速やかな応急手当や医療機関への搬送が必要な場合もあります。消防署や日本赤十字社などが行う A E D などを用いた救命講習や応急手当講習なども受講しておきましょう。

## (6) 応急活動・初期消火活動

- 水害や土砂災害のときには、土のうを積んで浸水や土砂の流入を防止します。
- 災害の発生時には出火に注意し、防火を呼びかけます。
- 火災を発見したら、大声で「火事だ!」と叫び、周囲に知らせるとともに、「119番」へ通報してください。
- 初期消火班を中心に、周囲の人に協力を求め、消火活動を始めます。消火器やバケツリレーなどを活用し、火炎や煙に注意して風上から消火・延焼防止活動を行います。常に退避経路を確保して危険な場合は速やかに退避しましょう。

### 消火活動は無理をせずできる範囲で

消火が難しい場合は、安全を確保できる範囲での初期消火・延焼防止活動にとどめ、消防署や消防団の到着を待ちましょう。

消防署や消防団の到着後に協力を求められたときは、できる範囲で消火・延焼防止活動や避難誘導に協力してください。

## 5. 災害発生後・避難所での活動

### (1) 協働による避難所の開設・運営

- 避難所の開設・運営は自主防災組織や施設管理者等で構成される地域住民、市職員が協働で行い、よりよい避難環境を確保しましょう。
- 要配慮者には、避難所でも特別な配慮が必要な場合があります。協力して支援しましょう。

### (2) 情報収集・広報活動

- 避難所には掲示板を設置し、市や避難所からの情報が住民に伝わるよう広報活動を行います。
- 住民から情報発信できるように、伝言板の設置や、広報紙を作ることもよいでしょう。

### (3) 給食給水・生活支援

- 各避難所の備蓄物資や各家庭から持ち出した食料や飲料水でまかなえない場合などに、共同で炊き出しを行います。
- 停電や断水などが予想されるので、自主防災組織としても食料品・飲料水に加えて調理器具や燃料を備蓄しておくとい良いでしょう。
- 避難が長期化すると生活スペースやトイレの衛生管理、救援物資の配布などさまざまな作業があります。自主防災組織が中心となって、作業にあたきましょう。
- 避難所外の被災者にも配慮が必要です。ニーズを調べ、必要な支援を行いましましょう。

### (4) 安全点検・巡回活動

- 避難したあとに、地域の被害が拡大することもあります。防火・防犯活動も兼ねて定期的に地域を巡回しましょう（危険な地域は立ち入りが制限されることがあります）。
- 避難所外の被災者にも巡回して声をかけ、情報を伝えるとともに支援を必要としているか聞き取りを行いましょう。
- 新しく被害の拡大や危険箇所を発見したら、立ち入りを制限して、注意を呼びかけましよう。

## 避難所外の被災者支援

災害時、在宅生活者や公園・車中などで生活を送る人もいます。こうした「避難所外の被災者」への支援も重要です。特に高齢者や身体の不自由な在宅生活者は、情報や物資が集まる避難所へなかなか行くことができず、断水時には水を確保することができなくて生活が困難になるケースもあります。区・自治会や自主防災組織を中心に地域を巡回して安否を確認し、地域ぐるみで助け合う活動が大切です。

- ・ 避難所外の被災者の把握（安否確認）
- ・ 広報誌や回覧による情報の伝達・被災者が必要とする支援（ニーズ）や健康状態の把握
- ・ 飲料水や食料、生活物資などの調達と配達
- ・ 通院の付き添い など

避難所外の被災者への支援には、避難所の運営に参加する住民や市職員との連携が欠かせません。区・自治会や自主防災組織が避難所と地域住民をつなぐ窓口になり、協力して活動しましょう。



## （5）自主防災組織の活動記録

- 活動の記録を残しておくことで後日振り返ることができます。災害を通じて経験したことや教訓となるものを以後の活動に生かしましょう。

## 6. 平常時の活動

災害が発生したときに「自分たちの地域は自分たちで守る」ためには、日頃から心構えや地域の中の人と人とのつながりが大切です。自主防災組織として平常時から積極的に活動に取り組み、話し合いや創意工夫を重ねながら災害に強いまちづくりに取り組みましょう。

### (1) 活動計画の作成

活動計画の作成、平常時や災害時の活動内容について話し合い、定期的に活動が続けられるような計画を作成しましょう。計画の策定や見直しをするときには、住民から広く意見を聞くことが大切です。自主防災組織の活動を振り返り、よりよい計画ができるよう、次のような方法で検討してみましょう。

#### ① 優先順位をつける

自主防災組織が取り組む活動は多様で、満足できる活動を行うことは大変です。計画や目標には優先順位をつけて、できることから取り組みましょう。

#### ② 班ごとに話し合う

自主防災組織の役員ばかりが話し合うのではなく、活動班や町内の班ごとに自主防災活動について話し合える機会を設けましょう。活動の機会を通じて住民同士の理解や連携を深めましょう。

#### ③ 計画の目玉を考える

年間活動計画の中で、その年の目玉となる活動や目標を設けることで、計画にメリハリをつけることができます。やる気につながる活動を考えましょう。

#### (例) 年間活動計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間活動計画の作成		活動班別の訓練の実施	防災訓練の打ち合わせ	日高市総合防災訓練参加				防災地図作製 地区内の安全点検	家庭内対策 応急救護の講習会	防災資機材の点検	

## (2) 防災知識の普及・啓発

防災の取り組みは各家庭の対策から始まります。防災の心得や備蓄品・非常持出品の準備、耐震診断や耐震補強などについて各世帯に周知しましょう。

- 定期的に防災に関するチラシや回覧板などを作成しましょう。
- 自主防災組織の役割と活動についても住民に理解してもらいましょう。

## (3) 防災点検・防災マップ（ハザードマップ）づくり

地域の中には、災害時に近づいてはいけな危険な場所や役に立つ防災資源などがあります。住民に広く参加を呼びかけ、平常時から分担して地域を点検し、気づいたことを地図にまとめた地域の防災マップを作っておきましょう。

### ① 地域の中を点検する

- ・地域にどんな危険があるか、災害時に役立つ地域の資源や避難場所がどこにあるかなど、大まかなリストを作って点検項目の概略を決めておきます。
- ・地域の地図や筆記用具を準備し、実際に歩いて地域の中を点検します。危険や安全に関わるもの、気づいたことや発見したことなどをメモしておきましょう。
- ・過去の災害で被害があったところは再点検しておきます。
- ・写真を撮影してメモと一緒に記録を残しておきましょう。

### ② 防災マップにまとめる

- ・地域を歩いて点検したことを地図にまとめます。地図は、住んでいる人や建物がわかるぐらいのなるべく詳しい地図を用意しましょう（例えば住宅地図など）。
- ・防災点検で確認した「危険箇所」や「防災資源」などを防災マップにまとめます。シールやマジックを活用して、地域の中の情報を色分けしてみましょう。
- ・地震や風水害など複数の災害を想定したり、たくさんの情報を地図の中にまとめたい場合は、地図の上にビニールシートなどをかぶせてシートの上書き込みましょう。シートを取り外したり交換することによって情報を更新できます。
- ・気づいたことや防災点検の結果は、付箋紙などに書き込んでメモとして貼り付けておきます。
- ・防災点検で撮影した写真も貼り付けておきましょう。



### ③ 防災マップを活用する

- ・防災マップを活用して、風水害や地震の場合における避難や、日頃から取り組む安全なまちづくりについて話し合しましょう。
- ・倒壊のおそれがあるブロック塀や墓石など、地域の中の危険を探し、改修や改善を話し合しましょう。
- ・防災マップの作成や、点検・調査活動を通じて住民の関心を喚起し、議論した内容を自主防災活動やまちづくりに反映させましょう。
- ・防災点検やマップの見直しは定期的に行いましょう。繰り返し実施することで、自主防災活動の活性化につなげましょう。

把握しておきたい地域の情報	準備するもの
<p><b>●確認したい地域の危険</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・急傾斜地</li> <li>・土砂災害（特別）警戒区域</li> <li>・浸水するおそれのある地域</li> <li>・急な坂道や階段、狭い道路</li> <li>・地震で倒壊の恐れがある建物</li> <li>・出火による延焼の危険が高い地域</li> <li>・地震で落下するおそれがある看板や高層ビルのガラス</li> <li>・過去に被害があったところ</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区・自治会の地図（手に持って歩けるサイズ、地域全体が入る大きなサイズの2種類あると良い。）</li> <li>・筆記用具、マジックシール、付箋紙</li> <li>・カメラ</li> <li>・ビニールシート（透明なポリ袋でも可）</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>
<p><b>●確認したい防災の情報</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・避難場所、集合場所</li> <li>・安全な避難経路</li> <li>・防災資器材の保管場所</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	
<p><b>●地域の防災資源</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公衆電話の設置場所</li> <li>・応急給水拠点や井戸消火栓</li> <li>・防火水槽、プール</li> <li>・工務店や建設会社</li> <li>・病院、薬局</li> <li>・アマチュア無線愛好家</li> <li>・防災機関に勤務経験のある人</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	 <p>The illustration shows two people wearing blue caps and yellow safety vests. They are standing in front of a wall with a map or poster. One person is pointing at the map, and the other is looking at it with an open mouth, suggesting surprise or discovery. The map has the word 'オーストラリア' (Australia) written vertically on it.</p>

## (4) 防災訓練の実施

### ① 防災訓練の目的

災害が発生したときに、自主防災組織として対処できるよう日頃から訓練を重ねておきましょう。訓練に参加する住民は、協力して一つのことを成し遂げる中で一体感を得ることができます。また、訓練を通じて、日頃の活動や計画に生かせる反省点、教訓を得ることも訓練の目的の一つです。より多くの人に参加を呼びかけ、定期的に防災訓練を実施しましょう。

### ② 訓練実施までの準備

主防災組織の年間活動計画や目標をもとに、訓練のテーマやポイントを検討しましょう。訓練の実施に向けた準備のステップは次のとおりです。

#### 実施計画の策定

限られた時間の中で、効果的な訓練ができるような計画づくりが大切です。参加者が災害時に役立つ体験を得られるような実施内容を検討しましょう。

#### 関係機関との調整

訓練を計画するにあたり、必要に応じて市危機管理防災課にご相談ください。計画を作成したら、日時、訓練の会場、実施内容、参加予定人数などを記入した「訓練実施計画書」を届け出るようにお願いします。訓練の実施内容によっては危険を伴う場合がありますので、安全に正しい知識を習得できるように、消防署員等の指導を受けてください。

### ③ 防災訓練に対する相談等

市では、自主防災組織で実施する訓練内容などの相談をお受けしています。危機管理防災課までご相談ください。

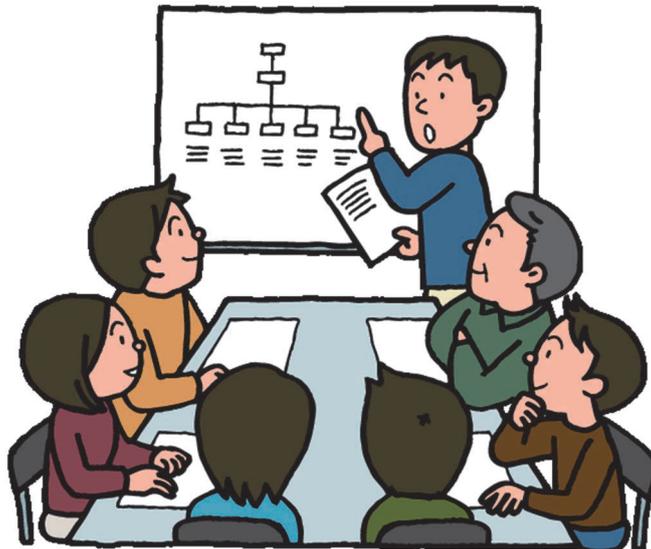
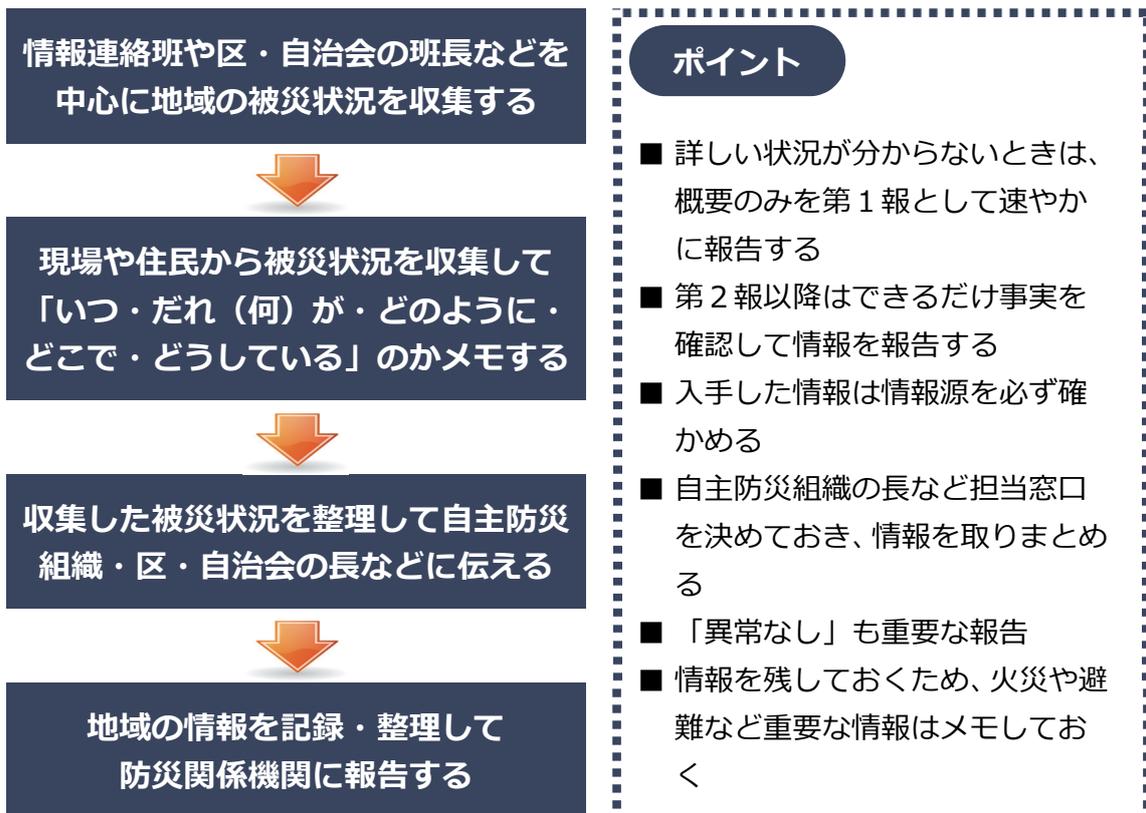
また、自主防災組織活動補助金は、設立の届出があった自主防災組織に対し、災害用資機材の購入や倉庫の購入費用、訓練の実施に対して助成しています。

## (5) 情報収集・伝達訓練

災害の発生直後は、誰もが情報を必要としています。的確に判断するためには正確な情報が不可欠です。いち早く地域の情報を収集し、正確に情報を伝達する方法を訓練しておきましょう。

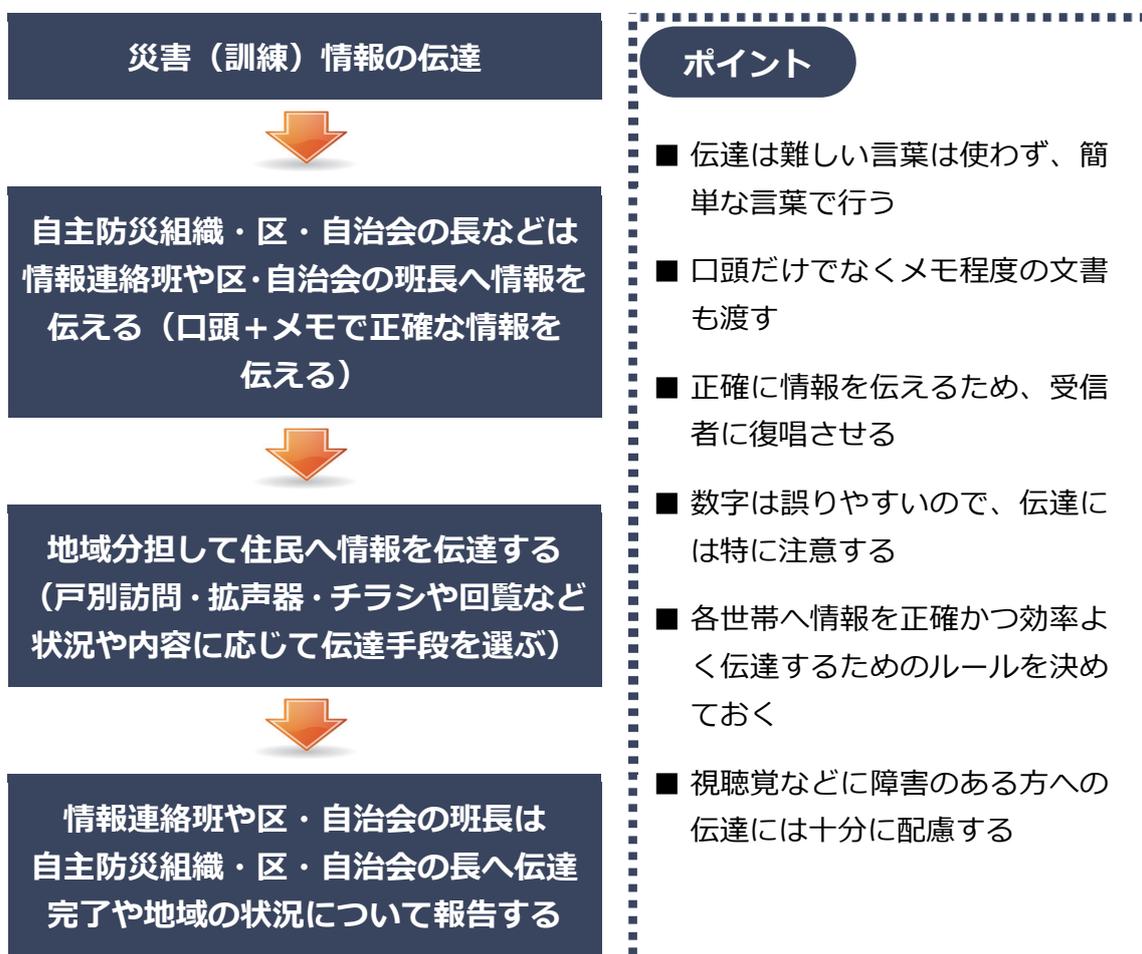
### ① 情報収集訓練

災害発生後、地域の被災状況や住民の安否、生活情報などを調査し、収集した情報を正確・迅速に自主防災組織の役員や防災関係機関に報告する手順を訓練します。



## ② 情報伝達訓練

市防災行政無線や広報車、避難場所、公共施設等の掲示板への貼り出し、市ホームページ、エリアメール及びSNSなどから、日高市における災害情報を収集し、住民に伝えます。得た情報や避難の呼びかけを正確・迅速に住民に伝える手順を訓練します。



## （6）初期消火訓練

消火用バケツや消火器（訓練用）を使用して、初期消火の方法や資器材の使い方を学びます。消火器の正しい使用法や火災から身を守る方法など、消防署等の指導を受けましょう。初期消火班だけではなく、多くの住民が体験できるようにしましょう。



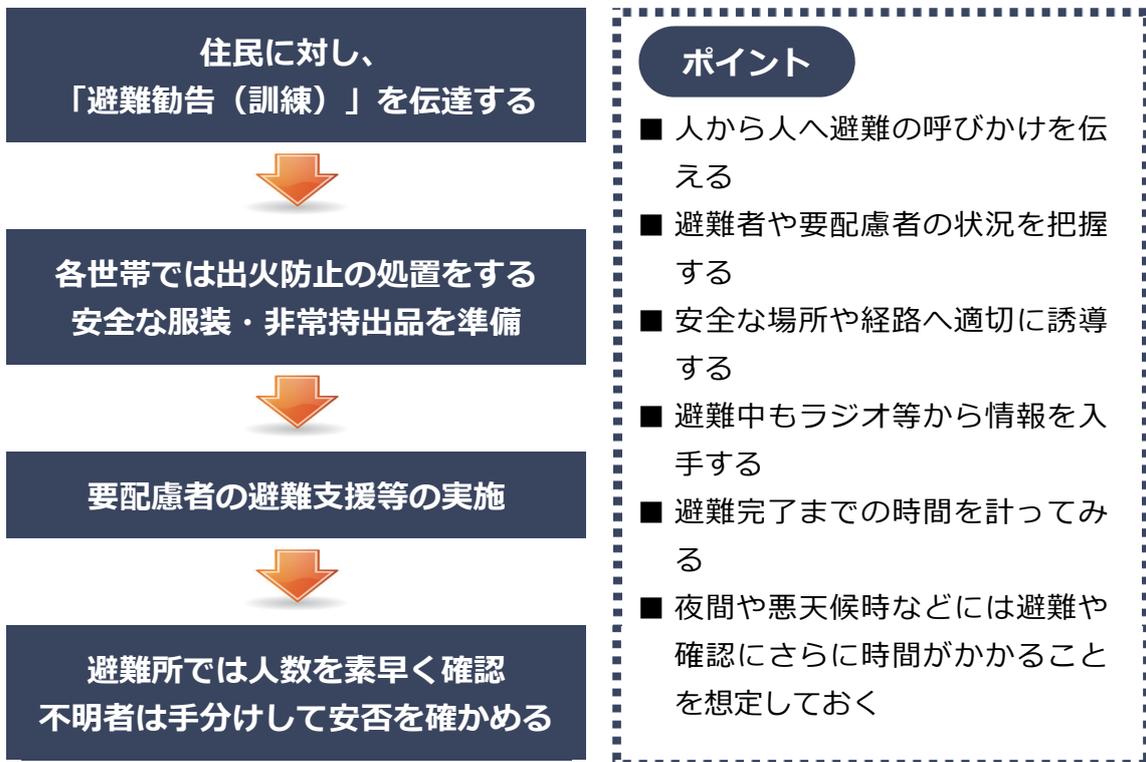
## (7) 救出・救助・救護訓練

ロープ、ジャッキ、バールなどの救出用資器材を使った救出活動を習得します。また、負傷者への応急手当や搬送の方法などについて習熟しておきましょう。



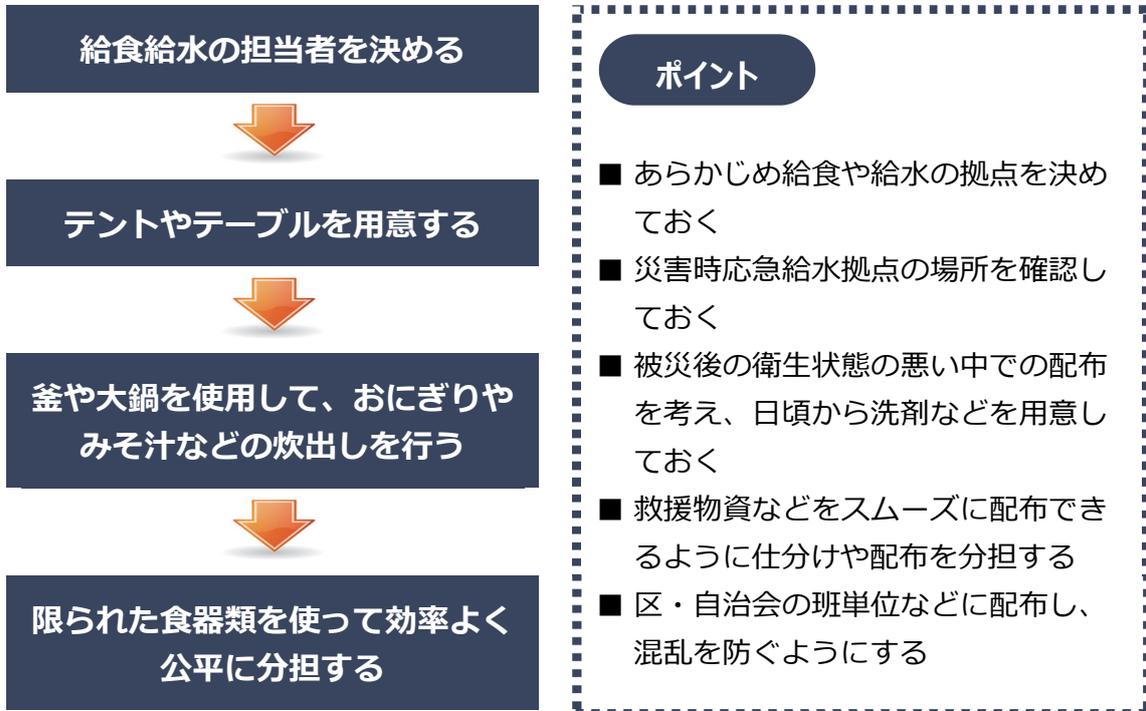
## (8) 避難・誘導訓練

実際に避難場所・避難所やあらかじめ皆さんで決めた場所へ集合し、避難経路を確認します。避難時の携行品や服装などを確認し、誘導の方法や担架、車いすなどを活用した避難支援も実践しましょう（地震の場合は、公園など一時的に集まる場所を決めておくこと安否確認が容易になります）。



## (9) 給食・給水訓練

限られた資器材を有効に使うって、食料、水を確保するとともに、効率よく配る方法を習得します。配布が必要な人数の把握と公平に配る仕組みも考えましょう。



## (10) 地域との連携

自主防災組織の活動は、区・自治会活動や地域のまちづくり活動などとうまく連携を図ることが大切です。

例えば地域の防火活動や防犯活動は、日頃からの見回りや声かけが基本です。見回り活動に安全点検を組み合わせたり、防火の呼びかけと一緒に災害に備えるポイントを伝えるなど、防災を日常の暮らしの中に溶け込ませる工夫が欠かせません。

自主防災組織の活動や防災訓練は、堅苦しく参加しにくいイメージを持たれがちです。より多くの住民に参加してもらうためには、区民祭などのイベントとうまく組み合わせたり、日常の地域活動とも連携を図っていきましょう。

## 7. 自主防災組織をもっと活性化させるためのヒント

### (1) 自主防災組織を結成するだけで終わらせないために

自主防災組織を結成し、もっと機能させるためには、防災訓練などの活動に積極的に取り組むことが大切です。若い世代も含めた幅広い参加を呼びかけ、自主防災組織をより活発に活動させるための方法を考えましょう。

#### もし災害が起こったらどうなるか繰り返し考えてみましょう

地域における防災上の問題点を洗い出してみると、自主防災活動を活発にするためのヒントが得られます。

- 災害が起きたとき、地域がどうなるか想像してみる。
- 必要になること・必要になる物・役立つ物を考えてみる。
- 役員・運営委員以外からもアイデアを募り、積極的に取り入れる。

#### 幅広いコミュニケーションを大切にしましょう

自主防災活動には「住民のつながりを生かして地域の防災力を高める」視点が必要です。住民のつながりを保つには「地域の中のコミュニケーション」が欠かせません。人と人とのコミュニケーションが生まれるきっかけを大切にしましょう。

- 日頃からの近所づきあい
- 地域づくり・まちづくり活動
- 区・自治会のお祭りや学校の運動会など

#### 協働（コラボレーション）を考えましょう

協働（コラボレーション）とは、様々な分野の人々が力を出し合って、共通の仕事に取り組むことです。地域防災に取り組むのは自主防災組織や住民だけではありません。次のような災害時に助け合える人・団体に参加を呼びかけ、地域の防災力をより高めましょう。

- 消防団やボランティア活動経験者
- 避難所となる学校、災害時に役立つ資器材を持つ事業所
- 近隣の自主防災組織や区・自治会など

## 8. 自主防災組織の地域防災力を強化する

自主防災組織がさらに活動を充実させ、防災力を高めることができるよう、市や関係団体の支援制度を活用するほか、地域ぐるみで連携を強化していきましょう。

### 防災訓練を充実させる

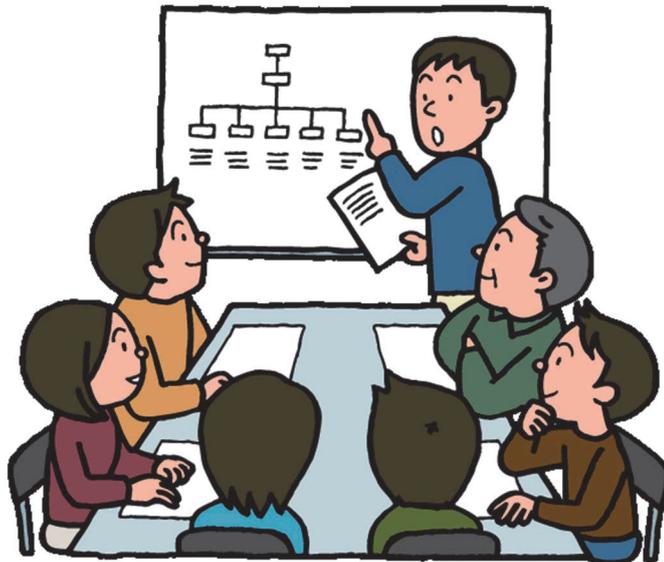
複数の自主防災組織や区・自治会が学校区単位などをベースにして、合同で訓練を実施することも効果的です。訓練計画の作成や資材の手配など、必要に応じて市危機管理防災課や消防署に相談してみましよう。

### 研修や講習会を工夫する

防災に関する研修会や講演会を開催するにあたっては、実技訓練を取り入れるなど住民の防災意識が高まるよう工夫しましょう。市危機管理防災課や消防署に相談してみましよう。

### 防災リーダーを目指す

災害に関する知識や技術を修得し、リーダーシップを発揮できる人がいると、いざというときに心強いものです。地域防災活動におけるリーダーを育成しましょう。



## 災害に備える防災資機材を準備しましょう

災害時に備え、自主防災組織では、  
次のような防災資器材を備えておくと安心です。  
いざという時は、各家庭や事業所などで活用できるものを  
持ち寄るなど、工夫して災害に備えましょう。

### 情報収集・伝達用

- ラジオ
  - トランシーバー
  - メガホン
  - 拡声器
- など

### 避難誘導用

- 避難誘導棒
  - 懐中電灯
  - リヤカー
  - 車いす
  - 担架
- など

### 救出・救助用

- のこぎり
  - バール、ハンマー
  - ジャッキ、スコップ
  - ロープ、ウインチ
  - はしご
- など

### 救護活動用

- 救急箱
  - 担架
  - 車いす
- など

### 初期消火用

- 消火器
  - 水バケツ
  - 消火ホース用ノズル
  - 屋外消火栓用器具
  - 可搬型消火ポンプ
- など

### 給食・給水用

- 鍋・釜類
  - 炊事器具セット
  - 水タンク
- など

### その他備えておくべきもの

ヘルメット、防災被服、腕章、テント、仮設トイレ、防水シート、  
毛布、発動発電機、投光器、コードリール、チェーンソー、  
エンジンカッター、ろ水機・浄水器、ガソリン携行缶 など

### 自主防災組織活動補助金

日高市では、自主防災組織が防災倉庫や防災資器材を購入する際、一部助成を行っています。交付には一定の条件がありますので、詳しくは市危機管理防災課までご相談ください。

